

☆学校の医療的ケア 課題・問題を洗い出し

教育新聞 2018 年 1 月 29 日

https://www.kyobun.co.jp/news/20180129_03/

＞ 文科省の「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議」はこのほど、第 3 回会合を同省で開いた。学校の医療的ケア実施体制の参考として、保護者や教員に現状を尋ねた調査結果などから、課題や問題を洗い出した。

同調査は、学校での医療的ケアを必要とする子供の保護者や、受け入れる教職員など、WEB を通じて全国から得た 419 件の回答をまとめた。

課題や問題として挙げたのは、車で子供を送迎できない場合の多額の通学経費負担や、学校看護師が非常勤のため付きっきりの医療ケア体制が取りにくいことなど。また、学校での医療的ケア実施は、保護者の付き添いが前提だったり、学校側が納得するまでの付き添いを求められるなどで、保護者の精神的負担が大きいことも挙げられた。

教職員からは、「医療的ケアとして学校ができることと、できないことの線引きの判断が難しい」「教師が教育業務ではない医療行為を実施することへの負担感」などが指摘された。

他にも、主治医と学校と保護者の連携について、関係者の専門性の違いと理解、コミュニケーションをどう克服するかという問題や、医師が指示する対応内容が、安全面などで学校で実施するのが困難なものもあるなどの課題が出された。

調査報告は、全国医療的ケア児者支援協議会の小林正幸委員が行った。同委員は「今回は学校の医療的ケアに関わる問題点の抽出を中心にした。一連の結果が全体の状況を示すものではない」と述べた。

…などと伝えています。



医療的ケア検討会議の第 3 回会合